

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立以来からの事業所としての運営理念をホーム入口付近に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の勉強会やスタッフ会議・研修会などへ積極的参加により、スタッフ全員が運営理念実現へ向けて取り組んでいる。	○ 出、退勤時にも確認できる様にタイムカード設置場所に掲示し周知に徹底を図っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方々にたいして広報の発行や施設行事等で周知の徹底を図る努力をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	敬老会に来ていただいたり、地元地域の方々との交流を深める様努力している。また、地域代表者の出席のもと施設運営推進会議を開催している。	○ 町会員として地域自治会の活動にも積極的に参加し、周辺住民との交流を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者のみではなく職員と共に自己評価に取り組んでおり、外部評価後全体会議で留意点及び指摘事項の改善策を話し合い、サービスの質の向上と評価の意義を認識している。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自己評価や外部評価の結果を参加者へ報告し、生の意見を聞き、話し合いサービスの質の向上につながる様にしている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を密にし、ホームが直面している運営課題やサービスの質の向上等、解決に向け積極的に取り組んでいる。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等で成年後見人制度については、認識している。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	精神的・肉体的虐待の防止について、スタッフ会議等で取り上げ意見交換し、管理者は職員の日々のケアを観察する等見過ごしの防止にも努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得			
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時は家族へ十分な説明を行い、書面にて同意を得ている。退居する場合は、本人及び家族と充分話し合い、納得いく退居先を確保出来る様支援している。		
11	○運営に関する利用者意見の反映			
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から意見・不満・苦情があった際は、話を充分聞き入れ、意に添う様努め、声掛けにて言動から不満等を察するよう努め、理解を得られたか確認している。		
12	○家族等への報告			
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、日常の様子を具体的に伝え大きな変化に対しては随時電話連絡にて報告している。預かり金については出納帳に記入し、毎月初めに領収書を入居費請求書と一緒に送付している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映			
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼び掛け、家族の意見などを外部へ表せる機会を設けている。		
14	○運営に関する職員意見の反映			
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や月1回のスタッフ会議を開催し、職員の意見交換や提案を受け施設運営に反映している。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整			
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化や緊急時等、必要に応じた柔軟な対応が出来る様ローテーションシフトを組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・担当者の変更時は、利用者への心理的負担等を最小限に抑える為、情報の共有、引継ぎの徹底を図るよう努めている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自治体及び社会福祉協議会等主催の研修会へ参加し、研鑽の場を増やす様心掛けている。受講後は報告書を作成し、伝達しており、研修の際は支障をきたさないよう勤務体制には配慮している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・地元の協会員として活動に参加し、交流を深め意見交換・情報収集により施設の質の向上に取り組んでいる。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	行事やレクリエーション等を通じて意見交換し、相互理解を深める環境作りに努めており、休憩時間や休憩場所を確保している。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の特性を活かせる配置や担当者の選任等に考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に、本人及び家族と事前面接を行い、話し合いの機会を設けている。他随時不安なことなどに対して電話などで対応し、安心して生活出来るよう配慮している。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る事を尊重し、出来ない事をサポートしながら豊かな暮らしが出来る様支援している。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	普段過ごす場所に、使い慣れた物、希望する物を使用できるよう家族と相談しながら配慮している。また、今までの生活習慣を取り入れたサービスを作成している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事を一緒に作り、教えて貰うなどすることで依りよい関係が出来る様努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪ねやすい雰囲気作りに努めている。また、定期的な面会を促し本人と密接な時間を過ごせる様配慮している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に敬老会等の行事を行う際、連絡をし積極的参加で交流をもち、家族と依りよい関係を続けていける様にしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が連れて行くので訪問援助はないが、今後入居者の希望があれば、いつでも対応できる様支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者の性格や利用者同士の関係を把握し、孤立しない様、コミュニケーションが図れる機会を多くもつよう努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅介護支援事業者と連携を図り、家族や本人に係る情報交換し、不安解消が図れる様対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの話を聞く時間を設け、各自に合ったコミュニケーションを図っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで得た生活歴や親類等から情報収集をし、参考にして入居者が出来る事を見つけ積極的に取り入れている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを把握し、入居者一人ひとりのペースに合わせた無理の無い生活、落ち着いた毎日を送れるように支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族・本人からの希望を取り入れ、個々に合った介護計画を作成している。作成後、スタッフ会議を開催し、内容を確認、個人ファイルに綴りいつでも確認できる様にしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは三ヶ月で行っているが、状態変化時には随時計画の見直し・変更を行い、家族からの同意を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自の記録は毎日記録し、プラン作成に反映する様にしており、計画の見直しをし、話し合いの結果を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常での電話連絡や家族の面接時など、随時要望や相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアによる手踊り教室、理・美容院の協力が得られている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居担当の居宅介護支援事業者とは、情報交換及び連携を図っている。グループホームの入居相談や概要説明・施設見学等も随時受け入れている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市や公的機関に出向いて連絡を取り合う等の支援が行われている。今後も連携を図り協力していく。地域包括支援センターとは、まだ協働されていない。	○	今後、地域包括支援センターとの交流を広げ、情報交換等での連携を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自の主治医や希望する病院へ受診しており、定期受診他、体調変化時は随時受診している。受診結果に異常みられた時は家族へ連絡し結果について共有を図っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者は定期的に専門医に受診しており、連携がとれており、また、訪問看護や緊急受診の対応も整えている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回の訪問看護を利用。相談や助言を受けていて、24時間いつでも相談できる体制を図っている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中に家族・主治医・看護師・医療ソーシャルワーカーより、病状の説明を受け、早期退院・退院後の対応について話し合いの機会をもつようにしている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一人ひとりの主治医や協力病院と連携しており、異変時は早急に対応してもらえる体制を整えている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人及び家族の希望を組み入れ、安心した暮らしの喜びを得られるよう努めている。急変時に備え主治医と話し合い準備を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居前に本人及び家族、又は担当ケアマネジャーと充分話し合い納得のいく退居先を確保できるよう支援している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定、拒否する事なく利用者の意向を配慮した上で、常識的かつ適切な声掛けを行っている。また、入居事前に情報提供していただいており、入居者一人ひとりの症状、記録をとっている。記録等の個人情報保護確保については充分配慮し徹底している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望や自己決定を尊重し、本人が出来る様支援している。また、日々の関わりや家族等からの情報により、利用者の関心のあるものを把握し、利用者が意思表示できない場合でも、表情等から把握するよう努めている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先して利用者の訴えを後回しにする事なく、余暇活動をしたり、また天気の良い日はホームの周辺を散歩したりと、身体、精神状態に合わせた支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望により、散髪は理容所にきてもらっている。また、利用者の同行のもと衣服を選んだり、同行できない場合には利用者の個性や希望、機能性を考え衣服選びをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、準備、片付け等手伝いが出来る入居者には、気分転換や残存機能維持の為に手伝って頂いている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者希望により、職員と一緒に近くのスーパー等に買物に出かけ楽しめる様支援している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は毎週火・木・土曜日とし、その他入浴希望の時間等は入居者に合わせ実施している。また、疾患等に配慮し、浴槽につかる時間や洗身に対して適切な支援をしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の睡眠パターンを把握し、散歩や適度な軽運動を取り入れ安眠出来る様支援していて、眠れない利用者については原因を見極め夜間付き添う等対応し、生活リズムを整えるよう支援し、必要に応じ家族や医療連機関と相談し眠剤の服用等について調整する。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	桜まつり、ねぶた祭り、菊人形まつり、ドライブ、秋の収穫祭等季節感を味わい喜びのある支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望、金銭管理や使う為に有する力を把握し、出来る限りお金に触れ合えるよう支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に配慮し天気の良い日は、ホームの周辺を散歩や、ドライブ等をし気分転換につながるよう努めている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事を計画し、春は「さくらまつり」夏は「ねぶたまつり」秋は「菊ともみじまつり」「小坂へ芝居見学」等入居者皆で楽しみ、気分転換を図る機会をつくり支援している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望によりいつでも気軽に手紙を書いたり、電話にて会話のできるよう支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホールや開放している面談室には、ゆっくり寛げる椅子や、他入居者と個別に会話のできるスペースを確保している。		
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	食事をしやすいように食事中のみ車椅子用テーブルを使用している入居者はいるが、食後は取り外し自由に移動できるようにしている事で、身体拘束を行わない対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、出入りを自由に行っている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所に居て、利用者の所在確認を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	倉庫などに鍵をかけ、必要な時だけ取り出すように心掛け、職員が管理している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があった場合、事故報告書を作成し、改善に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網及び応急処置マニュアルを整備し、状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全員参加のもと定期的に避難訓練を行っている。	○	年2回昼夜を想定しての避難訓練を実施している。また、地域の方々との連携も働き掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の許可を得て、医師から病状について伺い、今後の対応策について話し合うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間の引き継ぎにて、入居者の体調変化の異変に早急に気づき、速やかに対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はすべて職員が行い、誤薬のないよう毎食事手渡し服用した事を複数で確認し、記録用紙に記入している。医師の指示とおりの薬の用法や用量を把握し、副作用について理解し服薬の支援を行い、症状を確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分・食事摂取量を把握し、軽運動など体を動かす事を日課として取り入れ、排便記録を記入している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕食後の歯磨きを、義歯の手入れを実施し、一部介助が必要な入居者に対しては職員が見守り、介助し清潔保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量及び、食事摂取量の記録を記入し、摂取量不足・過剰者に対しては体への影響について説明し理解していただき、必要に応じ家族へ協力していただき健康維持に努める。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は、事前に家族の同意を得て、全入居者及び全職員が実施している。また、感染予防のマニュアルを作成し、施設内研修も行い理解に努め取り組んでいる。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前に除菌用のアルコールを調理器具に使用し、また、和え物などには使い捨て手袋を使用し衛生管理に努めている。週一回冷蔵庫内の清掃・除菌を行っている。また、職員の手洗いを徹底し食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花や農作物を植えたり、また庭園も造り工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには季節に合ったディスプレイをし、季節感を出し施設内でも季節を感じ居心地よく過ごせるよう工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりの性格や入居前の生活状況などを把握し、ダーブルの席割りを工夫したりホールや居室にて過ごしやすいう声掛けなど行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に私物の持ち込みが可能である事を説明している。使い慣れた生活用品等を部屋に置き、落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、トイレには換気扇が設置されており、常時換気に配慮している。夏季には体調を崩す事が考えられる為外気温との差がないようクーラーの温度調節を管理し、冬季にはホール内に加湿器二台設置し、湿度にも十分配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等、要所に手摺りを設置しており、浴槽内には滑り止めマットを使用する等、身体機能の低下や安全面への工夫が行われている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	記憶力が低下している入居者の場合、本人が分かるように目印をつけ、各居室や入り口やトイレ、浴室には異なる暖簾を下げ、混乱を招かない環境作りに配慮している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前には、庭園、畑などがあり、入居者と共に楽しみながら整備し活用している。また、庭園前で食事会も実施している。		



部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

・咀嚼、嚥下力低下防止として、毎食前に軽運動・咀嚼体操を取り入れ、下肢筋力低下予防策として、午前・午後廊下歩行練習を毎日実施している。天候・体調に合わせホーム近隣を散歩へ出掛けるようにしている。